
転生するはずなのに『神』を殺してしまった人間

空白の影絵師

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

転生するはずなのに『神』を殺してしまった人間

【Nコード】

N1954Z

【作者名】

空白の影絵師

【あらすじ】

とある世界でキモイ神に殺されてしまった少年？七会静。殺されたのなら殺し返そう。よし殺そうすぐ殺そう。

これはそんな少年と憎き神々の殺し合い……………というわけでもない話。

（注意）これは一応、恋姫無双の二次小説です。そこのおところをお間違えないようお願いします。

第零話 この神K O R O S U（前書き）

これは一応、恋姫の二次です。

なんか書いてたらおかしくなっちゃったけど……

駄文ですがよろしければどうぞ。

第零話 この神 K O R O S U

私の名前は、七会静ななえしずか（はじめましてだな）

突然ですが、私は死んだようですね（これはマジね。本当と書いてマジ）

何故なら、いま私の前で神と名乗るお爺さんがいますからね（ダン
○ルドア（笑）

なにか長いこと一人で語っています（ほとんどが自画自賛の言葉とかウゼエ）

「おい、聞いておるのか人間？神の中で最上級に位置する最高神たる儂が語ってやっているのだぞ？」

あ、やっと終わったみたいですね（長え〜んだよ糞ジジイ）

「あの、此処はどこなんですか？」（周りが白一色の世界にいると思ってくれや）

「ふん、人間如きが儂に口を聞くなぞ、本来なら万死に値する愚行じゃが、今回は特別に答えてやろう。此処は神の国の更に高きところにある『最上級神の間』じゃ」

「えっと…私はなぜそのような所にいるのでしょうか？」（つーか今更だがキモイなこいつ（笑）

「本来、貴様のような俗物がここに来ることはないのだがな……儂

が地上に遊びに行ったとき、うつかり力を漏らしてしまつてな。その時たまたまそばにいたお前は力の影響に耐え切れず死んでしまつたじゃよ。こんなことが他の神々にバレると不味いから仕方なく貴様の魂をここに呼んだんじゃよ」

.....

「では私はたまたまそばにいたという理由だけで死んでしまったのですか！」（ふざけんじゃねーぞ糞ジジイ）

「喚くな。まあ、たしかに今回のことは儂にも非があつた。じゃから詫びとして貴様を異世界へ転生させてやる」

「異世界ですか？具体的には何処に？」（二字小説みてーだな）

「恋姫無双とかいうところじゃ。儂はあのゲームが好きで」

うわ、爺さんがいきなり「恋たん…ハアハア／＼」とか言い出した（うおっ、キモス！寺キモス！）

「ついでに何か能力もくれてやろう。あそこは一応、群雄割拠の戦乱の世じゃからの。」

「能力ですか？」（うわ、ほんとに二字小説みたいになってきた）

「うむ。無限の剣製でも王の財宝でもバッチこいじゃ。数はそうなの……4つまでじゃ」

「はあ、いきなりそう言われましても……」（そこは切り良くうたでろっが。まあいい。さて、どうすっかな……）

「鬱陶しいのう。ここは定番通り fate の宝具で決まりじゃろうが」

「そう言われましても……」(さつきから思ってたがコイツ態度がでかすぎだろ。誰のせいでこんな目にあってると思ってるんだ。あゝもう、ウザイウザイウザイウザイウザイ)

よし、決めた。コイツはブツ殺そう……………

「それでは私の言った通りのチカラをください。

1つ、あらゆる時を司るチカラ。

2つ、殺した相手の力や能力、知識や記憶など全てを奪うチカラ。

3つ、どんなチカラにも順応し、使いこなせる体。

4つ、私自身に限り、あらゆる可能性があるようにしてください。
以上です。」(さて、気づくかな最高神様。クククッ)

「なんじゃ変のもんばかりじゃな。本当にそれでいいのか？」

「はい。出来ますか？」(なんだ気づいてねーのかよ。)

「儂を誰じゃと思つとる。そのくらいわけないわ。そらチカラを扱
うための知識と一緒にくれてやる」

おお、なんですか！？いきなり光が…（うおっ、まぶしっ）

「それじゃ行く良い。いざ、恋姫無s「ちょっと待ってください」
なんじゃ、まだ何かあるのか？」

「いえいえ、ただちよつとした能力の確認をしたいだけですよ。」
（さあ、終わりの時間だ糞ジジイ）

「そんなもん、向こうでやればいいじゃろっが」

「すぐ終わりますから」（そう、すぐに終わるよ）

「あなたの命がね」（テメーの命がな！！）

「なにっ！？く、なんじゃこれは……？」

「なに、単純なことですよ。私の『あらゆる時を司るチカラ』を使って、あなたという存在の時間を終わらせたんですよ。ビデオの早送りのように。」

「そんな馬鹿な！？儂という存在に『終わり』など存在せん！！有り得んはずじゃー！！」

「『有り得ないことなど、有り得ない』誰かが言っていましたね……そんなこと」（グード様ー！！！！！！）

「そ、それはグー、まあ、本当のことを言うと、私の第四のチカラのおかげなんですけどね……」？……………！？」

「そう、私の第四のチカラ。さしずめ『あらゆる可能性の存在する世界』ですかね。確かに最高神たるあなたに『終わり』なんて存在しないはずですが、無限に存在する平行世界の中で、運悪くあなたには『終わり』が存在していたみたいですね」（そう、運悪くな……クククッ）

「そんな……ばか………」

「最後に、私からひとつ——『テーマのチカラは全て有難く俺が貰っておいてやるぜ。まあ、安心して消えろや。ギャハハハハハハハ』」

「キ…キザマアア——！！！！！」

「『失せろ、老いぼれ』」

「ああア阿亜ああアああ——！！！！！！！」

とある世界で、本来有り得るはずの無いことが起こった。

人間が生みの親である最高神を殺すという事件。

これは数多ある、数々の神界に知れ渡り、神々を恐れおののかせた。

ある神は、神を殺した者を恐れ、また、ある神はそのことに激怒した。

人の身でありながら、神を殺した人間
名前は神々の間にまたたく間に広がった。

——七会静の

そして、

その日、一つの神界が消え去った。

第壱話 いやいや、マジで遭難したよ…（前書き）

第壱話です。

やっと恋姫関連に入れる。

第壱話 いやいや、マジで遭難したよ…

とある森の中——そこには少年の死体があった。

体には裂傷と打撲の痕。

当に生命の鼓動は止まり、その体は氷のように冷たくなっていた。

少年——ろうさいれん楼雑煉の生涯はここで終わるはずだった……

しかし、とある神殺しの介入によって少年の物語は再度始まる。

これは外史。

死んだはずの少年、平行世界、三国志、天の御使い、そして……人の身にして神を殺せし神殺し。

交わるはずの無かった運命は、有り得ぬはずの存在によって歪み、壊れ、入り交じる。

世は群雄割拠の乱世の時代。

これはひとりの少年の織り成す、愉快痛快で悲劇も喜劇いくさがたりな戦語である。

*** **

「つーか、ここどこよ?」

世界に現界した俺の第一声はコレだった。

周りは見渡す限り木、木、木。

どこを見てもそんな自然物しかない。

まあ、実際はこの子の記憶があるので、どうしてこんな所に居るのかは分かつてはいるのだが……

「いくら自暴自棄になっているとはいえ、無策でこんな山奥に来んなよ……。これじゃ遭難だよ遭難。」

そう、ここにいる理由は分かっているのだが、いかんせん帰り道が分からない。

しかも、太陽の位置からしてもうすぐ日が暮れる。

夜になったら本当にどうしようもなくなる。

「まあ、帰り道が分かっていたとしてもあんなところに帰る気なんてサラサラないけどな。」

とりあえずは寢床の確保といこうか。最悪、村に帰らなくても森で修行とかすればいいしな。

とりあえず、近くにあった湖の近くに錬金術で簡易的なログハウスを創り、湖の魚を焼いて食べた。

その後、腹ごなしもかねてこれまた錬金術で創った槍（土中の鉱石などを錬金した高鉄製）を一通り振るった後、ログハウス内の簡易ベッドで寝た。

転生初日はそんな感じで終わった。

第壱話 いやいや、マジで遭難したよ…（後書き）

次回は、ちょっとした説明会。

あと、主人公のことも載せます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1954z/>

転生するはずなのに『神』を殺してしまった人間

2011年12月31日20時54分発行